

# 産学連携人材二一ズ交流会実験

(社)私立大学情報教育協会  
事務局長 井端正臣

# 平成19年度私立大学教員の授業改善調査（回答数23,603人）

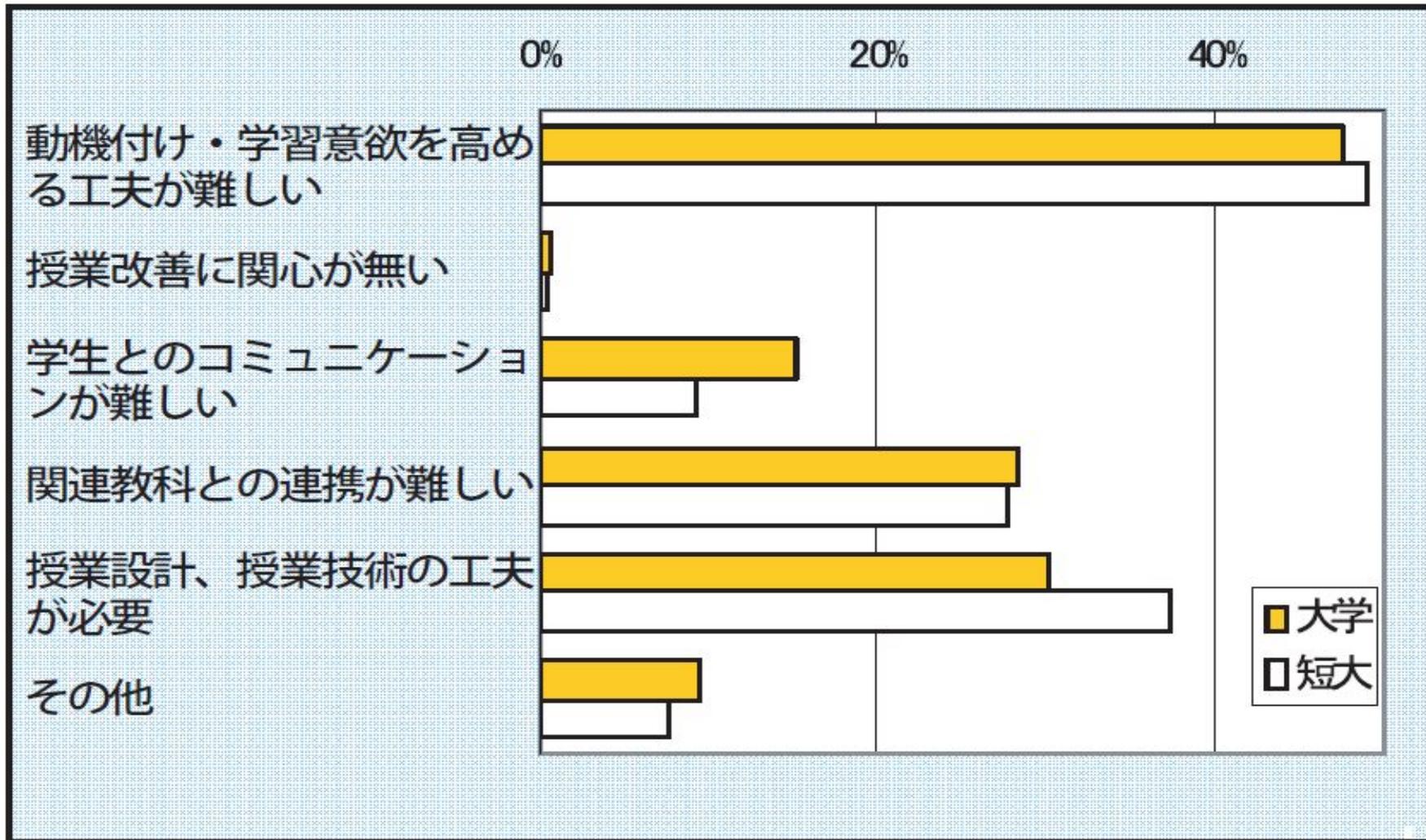


図2. 授業で直面している問題点【教員に関する問題】



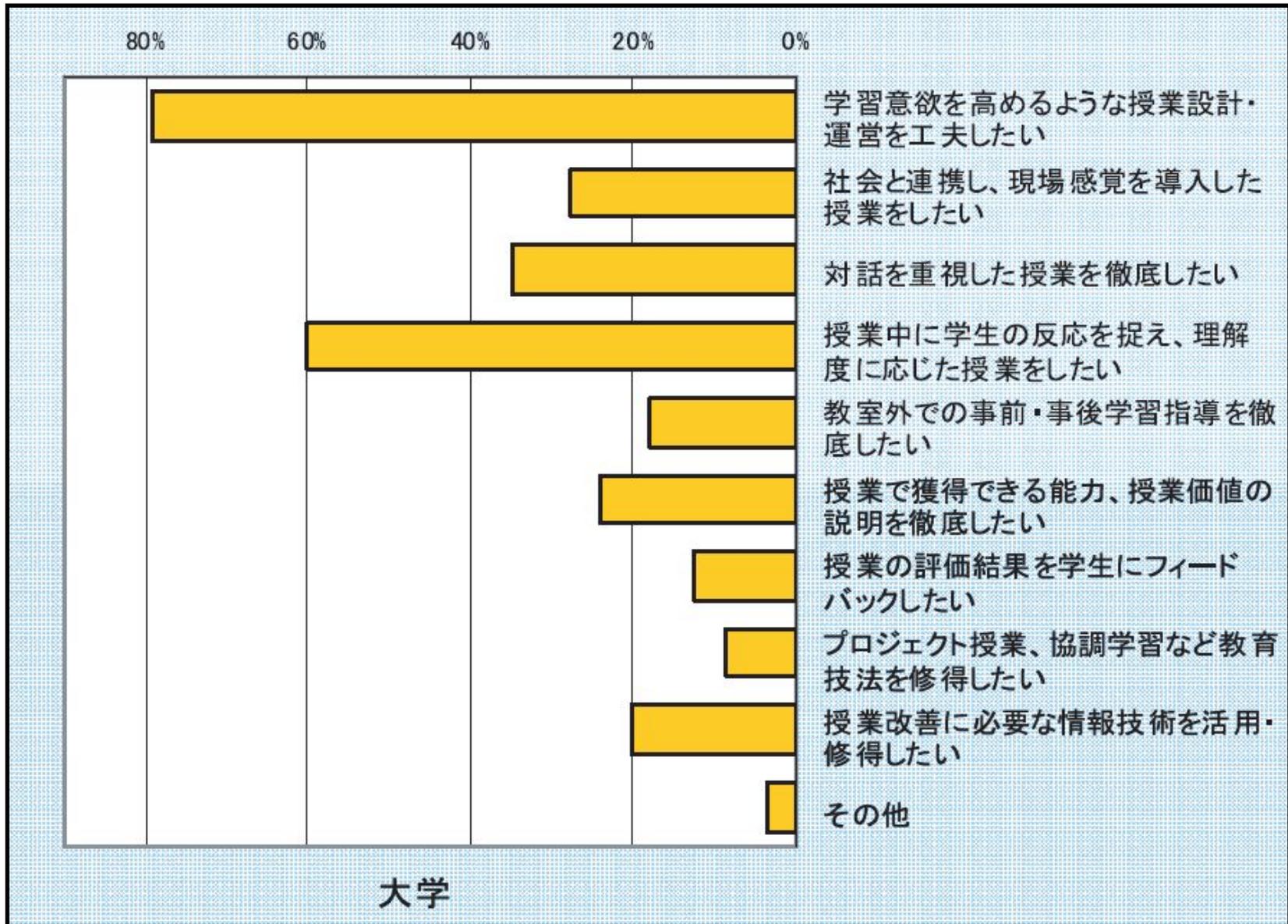


図4. 授業改善に向けた課題【教員自身による努力】



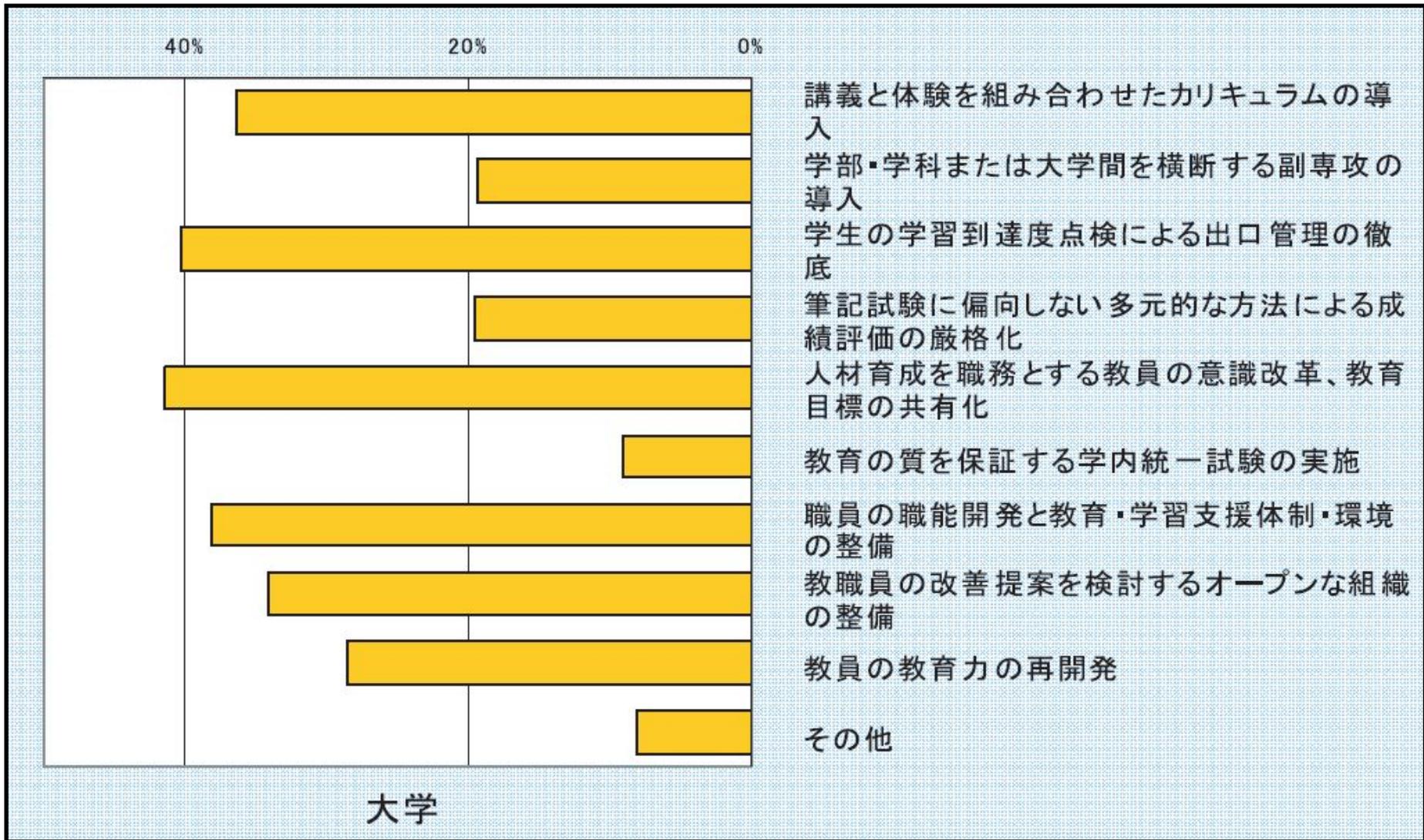


図5. 教育改善に向けた課題【大学として取り組むべき課題】



# 文部科学省中央教育審議会答申

## 1. 学士力の明確化

- \* 学習成果の到達目標、測定指標の明確化と公開

## 2. 教育課程の工夫

- \* 基礎的な読解力、文書表現力等の徹底
- \* キャリア形成を教育課程に位置づけ、教員が参画

## 3. 教育方法の工夫

- \* 学習の動機付け、双方向型の学習、体験活動の積極化

## 4. 成績評価の厳格化

- \* 成績評価基準の策定、第三者参画による通用性の確保

## 5. 教職員の職能開発

- \* 大学教員に必要な「職能」、「教育力」の明確化

# 人材育成の課題

- 基礎学力の強化、人間力の涵養
- 社会の信頼に応える学士力の構築
  - \* 身に付ける能力、到達目標のマッチング(大学と企業)
- 知識・技能の「活用」
  - \* 現場感覚を導入した実践型授業の普及・充実
- 学びの動機付け、学習意欲を喚起する授業作り
  - \* 現場・体験情報(エビデンス)の活用
- キャリア形成支援の教育
  - \* 持続的就業力の体験
- 教員の教育力の開発
- 就職活動の長期化による学修期間の確保

# 産学連携人材ニーズ交流会の意義

- 大学、企業の人材育成に対する認識を一体化
  - \* 人材育成なくして、国・社会の発展はない
- 大学、企業で人材育成の役割・目標を明確化
- 問題点・課題を共有し、理解を深める
- 大学教育の改善策を意見交流する「場」を持つ
- 人材教育の連携試行プログラムのとりまとめ
- 産官学による持続可能な支援体制を開発

# 人材ニーズ交流会の教員アンケート

- 経済・経営・会計、機械工学・経営工学、情報系  
・・・287名回答/3,448名(8.3%)
- 9割以上が交流会の必要性を認識
- 産業界も大学も適切な人材育成の目標を見失っている。協働の出会いには時宜を得た提案として高く評価する。
- 次世代への社会を担っていける人材の育成が出来るか、産官学民で検討する場と実践していくためのシステムがあるべき。
- 将来的には大学と企業が連携して、人材育成に取り組む実例とその効果の紹介が出来るところまでの成果を期待したい。
- 産業界で実績を積んだ者を大学側が積極的に受け入れ、教育に活用する仕掛けを作る。
- 大学の情報教育が基幹システムや経営支援システムから離れているところが多分に見受けられる。教員のキャリアによる部分もあるが、大学教育の狙いにも大いに問題がある。
- 産学が連携して実効的な教育のあり方、産と学との教育の分担・相互乗り入れ等、大きな効果が期待できそうなテーマが山積している

# 試行プログラムのイメージ

- 教員のインターンシップ
  - \* 授業活用現場のフィールドワーク
  - \* キャリア形成支援のフィールドワーク、体験
  - \* 最新の現場情報・技術のブラッシュアップ等
- 教育環境の充実
  - \* 現場情報、体験情報の活用
  - \* 人間力養成教育の支援
  - \* 専門家による学習成果の助言・評価
  - \* 実務者による実践教育の支援
  - \* 教育プログラム、教材の共同開発
  - \* フィールドワーク、インターンシップの受け入れ等